

聖書日課 『からし種』 2019.2.17~2.24

| | |
|--|--|
| <p>17日 (日) テトス 1章</p> | <p>「信仰を共にするまことの子テトスへ。父である神とわたしたちの救い主キリスト・イエスからの恵みと平和とがあるように」(4節)。パウロが若き同労者テトスに書いた手紙には、教会の指導者として立つ心構えが厳しい言葉で記されているが、パウロが年若い彼らをいかに愛し、尊び、彼らを覚えて祈っていたか。その深い祈りに教えられたい。</p> |
| <p>18日 (月) テトス 2章</p> | <p>「実にすべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました」(11節)。「すべての人々」の中に、キリストの死から二千年後の日本の私たちも含まれている。十字架で主イエスが処刑された時に弟子たちは逃げ去り、“The End”の幕が下りたかに思われたのに。神の恵みに不思議にも生かされた「ひとりひとり」を通して福音は今日も前進する。</p> |
| <p>19日 (火) テトス 3章</p> | <p>「しかし、わたしたちの救い主である神の慈しみと、人間に対する愛とが現れたときに、神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによってわたしたちを救ってくださいました」(4-5節)。わたしたちの義の業ではなく、神の憐れみによって。自分の狭く小さな「義」に固執することなく、神の憐れみを共に受ける者とされて。</p> |
| <p>20日 (水) フィレモン</p> | <p>「もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟として…オネシモをわたしと認めて迎え入れてください」(16-17節)。奴隷オネシモを「奴隷ではなく、愛する兄弟」として迎えてほしいと、彼の主人フィレモンにパウロが宛てた手紙。キリストの愛において私たちは互いにどう向かい合っていくべきかを短い手紙から深く教えられる。</p> |

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com 大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2019.2.17~2.24

| | |
|---|--|
| <p>21日 (木)</p> <p>ヘブライ 1章</p> | <p>「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」(1-2節)。</p> <p>神はいろいろな時に、さまざまな方法で語られてきたが、聖書にはキリストにおいて語られた決定的に大切なことが記されている。その大切なことを今日受け取る者とされて。</p> |
| <p>22日 (金)</p> <p>ヘブライ 2章</p> | <p>「それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした」(14-15節)。キリストは、私たちが死の恐怖の奴隷状態から解放してくださった！私たちの歩みの先には、絶望ではなく希望の命が約束されている。その良き力に囲まれて歩む者とされて。</p> |
| <p>23日 (土)</p> <p>ヘブライ 3章</p> | <p>「あなたがたのうちだれ一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、『今日』という日のうちに、日々励まし合いなさい」(13節)。神に与えられ、キリストが共に歩んでくださる「今日」。私の知らないところで多くの人の祈りに支えられている「今日」。わたし一人ではなく、信仰の友と励まし合い一緒に歩む「今日」を、祈りをもって始めたい。</p> |
| <p>24日 (日)</p> <p>ヘブライ 4章</p> | <p>「けれども、彼らには聞いた言葉(福音)は役に立ちませんでした。その言葉が、それを聞いた人々と、信仰によって結び付かなかったためです」(2節)。「神の福音を語る」ことは、語った言葉がそのまま伝わるわけではない。相手を思いながら「どんな言葉を使えば伝わるか」を考えることが神の国の交わり。その交わりこそが福音を伝えること。</p> |